

なぜピックアップゲームを行うのか

茨城大学バスケットボール部

顧問 加藤 敏弘

(2000.12.25 執筆)

バスケットボールは他のボールゲームに比べあらゆる場面でコーチが直接的に選手に働きかけることが多い。ラグビー等と違い選手交代の制限が少ない上に、試合中にコーチが直接コート上の選手と会話することが許されている。競技レベルはますます高度化・専門化し、戦術や戦略も多様で、ベンチワークが勝敗を大きく左右する。こうしたことから、小さな子どもから大人に至るまで、あらゆるレベルで選手の自主性を損ないがちになる。特に日本では子どもたちに指導する場合、勝つために必要以上に直接的に子どもたちに指示を与えてしまう。結果として、子どもが試合をしているのか指導者の欲求を満足させるために試合が行われているのかわからないほどである。ミニや中学のバスケットボールでは、大人顔負けの戦術が展開され、勝敗にこだわるあまりバーンアウトしてしまう子どもたちが後を絶たない。

バスケットボール発祥の地アメリカでは、第9学年(中学3年)までは、完全にレクリエーションとして位置付けられ、低学年(ルーキー)の試合では得点すらつけない。シーズン制の影響もありさまざまなスポーツに親しむ機会が準備されている。たくさんの大人が子どもたちのためにボランティアコーチとなり、審判をし、応援をする。敵味方に関係なく Good Try!という声援が飛び交い、みんなでゲームを楽しむ。つまり、子どもたちが自らスポーツを楽しむことができるようになるために、大人の責任において最低限かつ十分な指導が行われている。

その代わり夢を追い求める子どもたちにはハイスクール以降、厳しい試練が待っている。トライアウト(Tryout:適性試験)によって選ばれた選手だけが競技として特定のチームでバスケットボールを行うことができる。指導者は子どもたちに「バスケットボール選手として成功することは、非常に難しい」ということを伝えつつ、あらゆる技術と戦術をたたき込む。その中でさらに強靱な肉体と恵まれたセンスを持ち合わせチームプレイを大切にできる選手だけが、大学やプロでプレイをすることができる。

こうしたことから、トライアウトで漏れた一般の人たちは、公園や街角に設置されたリングを利用してピックアップゲーム(pick-up game:その場で寄せ集めチームを作って試合を行う)を楽しむ。子どもも大人も一緒になって気軽にバスケットボールを楽しむことができる。しかし、だからといってこのピックアップゲームは、単なるふざけたお遊びの場ではない。ハイスクール以上のチームに所属する選手たちは、練習時間が厳しく制限されているため、オフシーズンになるとこのピックアップゲームの場を利用して、ゲーム感覚を維持する。日本のように一度あるチームに入るとずっとそこに所属し続けるのとは違い、シーズン毎にトライアウトが行われる。そのため、あらゆる人々にチームに所属してプレイをする可能性が開かれており、ピックアップゲームはその力試しの場でもある。誰かに指導されるのではなく、自らの意志で創意工夫しながらプレイする。勝者がそのコートで

続けてプレイする権利を得ることができるチャレンジ・コート・システム (challenge court system) は、あらゆる人に等しくプレイする権利を保障しつつ、競争原理に支えられ、自然に強くなっていく場を提供している。

もちろんアメリカのバスケットボールはコマーシャリズムに疎外され様々な問題を内在している。しかし、日本のバスケットボールに関する限り、競技としてのバスケットボールだけが発展してしまい、一人一人が自立的にプレイを楽しむ場が生まれてこなかった。高度経済成長を支えてきた会社にお父さんが奪われ、子どもたちは学校に集められ、集団凝集性の高い民族性とも重なり、等質集団ばかりが作られてしまった。指導者の熱意に支えられながらも、ボランティアであるために限られた時間の中で自らの過去の経験だけに頼った指導になってしまう。子どもたちの成長にとって今何が必要なのか、文化としてのバスケットボールの本質をどのようにして伝えるのか。子どもたちの一生を左右することもある「指導」は、「ボランティア」の名の下に日本では何の責任も義務も問われないまま行われている。ミニや中学でも全国大会が開催され、勝利至上主義により全ての子どもたちが持っているはずの「プレイを楽しむ権利」が奪われるケースが後をたたない。今、日本の指導者には、技術や戦術を教えることばかりではなく、子どもたちが自ら学び豊かに成長することができる場をマネジメントすることが求められている。

総合型地域スポーツクラブが今まさに展開されようとしている。しかし、行政や他人任せでは、また同じことの繰り返しになるだろう。大人は子どものために何かをしてやるという意識ではなく、子どものように自ら楽しむ気持ちで、子どもたちと一緒にプレイを楽しむ場 (システム) を作る必要がある。そして、大人の責任において子どもたち一人一人の「プレイを楽しむ権利」を保障しつつ、誰もが豊かに成長できるようにマネジメントする義務がある。ピックアップゲームは、私たち日本の指導者にさまざまな示唆を与えてくれる。